

久留米大学では、他施設と共同で実施する下記研究のために、受診時に患者さんから取得された試料と診療情報等を共同研究機関より提供を受けています。

なお、下記研究は久留米大学の倫理委員会にて「社会的に重要性が高い研究」等の特段の理由が認められ、研究機関長の承認を得て実施しています。当該試料・診療情報等の使用については、研究計画書に従って匿名化处理が行われており、研究対象者の氏名や住所等が特定できないよう安全管理措置を講じた取り扱いを厳守しています。本研究に関する詳しい情報をご希望でしたら問い合わせ担当者まで直接ご連絡下さい。また、本研究の成果は学会や論文等で公表される可能性があります。個人が特定される情報は一切公開しません。本研究の研究対象者に該当すると思われる方又はその代理人の方の中で試料・診療情報等が使用されることについてご了承頂けない場合は担当者にご連絡ください。なお、その申出は研究成果の公表前までの受付となりますのでご了承願います。

【研究課題名】

「小児炎症性腸疾患における血清カルプロテクチンおよびロイシンリッチ α -2糖タンパク質(LRG)の有用性に関する研究」

【共同研究の研究代表機関及び研究代表者（試料・情報の管理責任者）】

研究代表機関（研究代表者）：久留米大学医学部小児科学講座 講師 水落 建輝

試料・診療情報等の提供先：久留米大学医学部小児科学講座

【研究分担施設・研究責任者】

- ・別紙参照

【試料・診療情報の対象者（研究対象者）】

- 1) 受診期間：平成28年11月から平成30年2月の間に受診
- 2) 受診科：久留米大学病院小児科および共同研究機関の各診療科
- 3) 対象疾患：2016年に開始した先行研究「小児腸疾患診断における新規血清マーカーACP353の臨床的有用性に関する検討」の研究に参加いただき、検体の2次利用に関して書面による同意を頂いた炎症性腸疾患、その他腸疾患の患者さんと健常児の方

【試料・診療情報等の項目】

試料：前述の研究で採取・分析した血清の残血清（凍結保存血清）。

診療情報等：診断名、年齢、性別、症状、病変部位、血液検査、合併症、内視鏡所見など

授受の方法： 郵送・宅配 電子的配信 直接手渡し その他（ ）

【研究目的】

上記の血清試料を用いて血清カルプロテクチン・LRGを測定し、診療情報を合わせて解析することにより、小児炎症性腸疾患の病態や重症度の判定、今後の治療方針などに有用であるかを検討します。また、クローン病と潰瘍性大腸炎での比較や、その他腸疾患・健常児と比較検討し、血清カルプロテクチンやLRGの疾患特異性をより詳細に検討します。

【研究（利用）期間】

久留米大学倫理委員会承認後から令和7年9月まで

【利益相反に関する事項】

本研究は特定企業からの資金援助はないため利益相反は発生しません

【問い合わせ先】

（本学）研究責任者：久留米大学医学部小児科 講師 水落 建輝

問い合わせ担当者：久留米大学医学部小児科 助教 安田 亮輔

電話：0942-31-7565（小児科医局直通） E-mail: yasuda_ryousuke@med.kurume-u.ac.jp

【学内研究分担任者】

・久留米大学医学部小児科学講座	助教	安田 亮輔
・久留米大学医学部小児科学講座	助教	坂口 廣高
・久留米大学医学部小児科学講座	助教	石原 潤
・久留米大学医学部小児科学講座	助教	白濱 裕子
・久留米大学医学部小児科学講座	助教	加藤 健
・久留米大学医学部小児科学講座	助教	津村 直弥
・久留米大学医学部小児科学講座	主任教授	山下 裕史朗
・久留米大学病院炎症性腸疾患センター	教授	光山 慶一

【共同研究機関】

大阪母子医療センター消化器・内分泌科	主任部長	恵谷 ゆり
大阪医科大学小児科	非常勤医師	青松 友槻
	助教	梶 恵美里
あいち小児保健医療総合センター感染免疫科	医長	阿部 直紀
順天堂大学医学部小児科	准教授	工藤 孝広
成育医療研究センター消化器科	診療部長	新井 勝大
済生会横浜市東部病院小児肝臓消化器科	副部長	十河 剛
埼玉県立小児医療センター消化器・肝臓科	医長	南部 隆亮
札幌厚生病院小児科	部長	高橋 美智子
佐賀大学医学部小児科	講師	垣内 俊彦
長崎大学医学部小児科	助教	橋本 邦生